

令和3年7月19日
東日本高速道路株式会社
関東支社

「第1回 横浜横須賀道路 逗子IC災害復旧に関する検討委員会」の開催結果 及びE16横浜横須賀道路 逗子IC利用再開の見通しについて

7月3日(土)からの大雨の影響によるE16横浜横須賀道路 逗子インターチェンジ(以下「IC」)におけるり面崩落については、現在復旧工事を実施しています。

今般、7月16日(金)に「第1回 横浜横須賀道路 逗子IC災害復旧に関する検討委員会(委員長:太田 秀樹 中央大学研究開発機構教授)」を開催しましたので、その結果について、別添のとおりお知らせします。

なお、本復旧による元どおりの利用再開には相当な時間を要する見込みですが、本委員会の結果を踏まえ、当社は、住宅地及び作業時の安全確保を最優先とした上で、土留め壁の設置や崩落土砂撤去等を行うことで概ね3か月を目途に暫定的に逗子ICが利用再開となるよう応急復旧を進める方針です。

1. 日時
令和3年7月16日(金) 13:00~17:30
2. 議事概要
別添のとおり

横浜横須賀道路 逗子 IC 災害復旧に関する検討委員会

第 1 回 検討委員会 開催結果概要

1. 被災状況

○7月3日（土）の大雨による逗子 IC のり面崩落について、地形判読、既往資料調査、現地状況調査などから以下のことを確認した。

- ・5段切土（1：1.2）頂点を起点としたのり面崩落により全ランプに崩落土砂が堆積
- ・今回観測された連続雨量（1日積算雨量）は198.5mmと過去10年間で最も多く、特に数日間の累計雨量を見ると著しく多かった（3日間降水量が既往の最大値に対し1.4倍）
- ・当該地は、泥岩砂岩互層が分布しており、切土面に対して流れ盤となる地質構造をしている。この流れ盤に沿ってすべり面と思われる平滑面が確認された
- ・今回の土砂崩落は、豪雨により流れ盤上の地下水位が上昇し、のり面が不安定になって発生したものと推察

2. 調査・動態観測計画

○地盤状態の把握のためボーリング調査を実施することを確認した。

- ・ボーリング調査：6箇所

○住宅地および作業時の安全確認のため、変状箇所の変位・地下水位を観測し、観測値に対して閾値を定め管理を行うことを確認した。

- ・伸縮計：住宅地側3箇所
- ・地盤傾斜計：のり面3箇所、住宅地側6箇所
- ・変位計測計：のり面3箇所、住宅地側3箇所
- ・水位計：2箇所

3. 今後の復旧作業について

本復旧対策は、崩落土砂を撤去したのち崩落部の測量、土質調査を行った上で、設計・工事を実施する必要があるため、また、周辺地域への影響を最小限に、慎重に施工を行う必要があるため、相当な時間を要する見込みである。このため、暫定的な運用により早期に逗子 IC 利用を再開する応急復旧対策を先行して委員会に検討・助言を求めた。

○応急復旧対策の施工上の留意点について以下のとおり確認した。

- ・住宅地及び作業時の安全確保を最優先に、住宅地側に抑止工を行った上で不安定と思われる土塊を除去し、下部の崩落土の除去を行うこと
- ・応急復旧対策を行い、暫定的な運用により利用再開を行うにあたり、土留め壁等による防護工により一般車の安全を確保すること

以 上

【参考】 検討委員会開催状況

